

## スポーツと教育

一橋大学 岡本ゼミB

○二居篤司 佐藤大河 納典子 真柄水紀

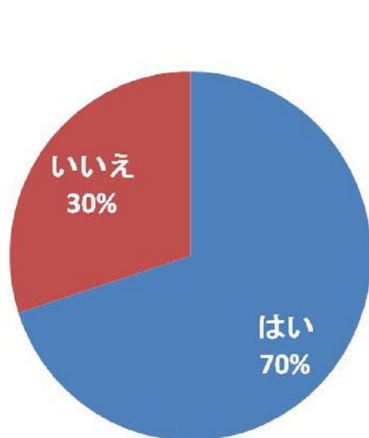
現在、スポーツのみに専念し十分な学力を身につけていないアスリートが多く存在し、それが原因となって様々なセカンドキャリア問題が発生している。日本の部活動においては学業を犠牲にして過酷な練習を課されるケースも数多い。「文武両道を実現している学校が増えそのブランド力が高まっていけば、今までスポーツのみに特化してきた人も勉強をする環境を得やすくなるだろう。そのための第一段階として、「文武両道校」のブランドを広く認知させることを目的に以下の研究を行った。

### 1. セカンドキャリア問題

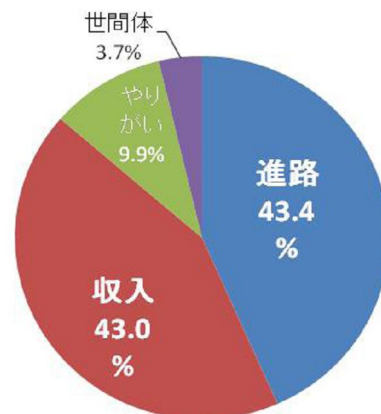
プロスポーツ選手という職業は華やかに見えるが、アスリートの競技生活にはいつか必ず終わりが訪れ、競技生活終了後は第2の人生であるセカンドキャリアを歩むこととなる。しかし、これには雇用機会の欠乏などの様々な問題が存在する。また、引退後の生活に不安を抱く現役プロスポーツ選手も多い(図1)。不安を感じる理由としては「何をしていけばいいかわからない」といった進路面での理由がトップを占め、収入面の理由が次に続いた。

現在の日本には諸外国と比べて引退後のプロスポーツ選手を支援するようなシステムが少ないことも問題ではあるが、それと同時にアスリート自身の意識にも問題がある。

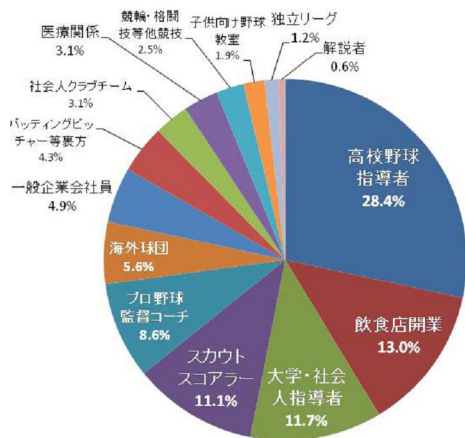
例として、プロ野球選手233名を対象に実施された「引退後、一番やってみたい職業は何か」というアンケートに対して、トップ5は2位となった「飲食店開業」以外はすべてスポーツ関連の職業であった。全体としてみてもスポーツ関連の職業が8割近くを占めている(図3)。これはプロ野球選手の進路の幅の狭さを示しており、他分野において進路を切り拓くことがセカンドキャリア問題解決のための大きな一歩になると言える。



【図1】 不安の有無



【図2】 不安の要素



【図3】引退後、一番やってみたい職業

現役プロ野球選手への「セカンドキャリア」に関するアンケート

<http://www.recruitcareer.co.jp/news/date/120123.pdf>

## 2. セカンドキャリアと学力

では、実際にスポーツ以外の分野で進路を切り拓くには何が必要であろうか。筑波大学トップアスリート・セカンドキャリア支援プロジェクトが現在スポーツ以外の分野で成功している元トップアスリート6人に実施したインタビューによると、6人全員がスポーツをすることで忍耐力や自己管理能力、判断力など、政治や企業などの他分野でも生きる力が身に付いたと語っている。しかし、「引退前にやっておいてよかったこと」に関しては資格の取得や一般常識・知識の学習などスポーツに関連しないことを挙げた選手がほとんどであった。このことからスポーツで得られた能力はどんな進路を選んでも役に立つが、他分野で進路を切り開くことに関してはスポーツ以外の要素が必要になると言える。

この進路を切り開く手段のひとつとして学力があげられる。学力は他分野への大きなアピールのひとつとなるからである。また、学力をつけるということは視野を広げることなので、キャリアの選択肢が増えることになるからである。

またセカンドキャリア問題にうまく対処しているスイスやフランス、ノルウェーなどの国においても、アスリートに学力をつけさせるような政策を実施している。このことから、学力向上に力を入れることはセカンドキャリア問題解決において非常に重要であると言える。

【表1】各国で行われているセカンドキャリア問題対策

国名	支援名	主体	対象	内容
ノルウェー	クォーター制度	OLYMPIATOPPEN	エリート・アスリート	キャリア教育と学業支援マネジメント
スイス	アスリートキャリアマネジメント	スイスオリンピック委員会	オリンピック	学業との両立に理解を示す学校を認定、有望なアスリートを進学させる。
フランス	ダブルキャリアサポート	フランス政府・スポーツ青年アシエーション省	トップアスリート（政府認定）	トレーニングと勉強の支援（大学の単位取得に猶予規定を法律で定めている）

ドイツ	キャリア コンサルティング	Olympiastuetzpunkt	オリン基地を使用するアスリート	勉強・職業・軍務との連携、生活基盤を作る支援
オーストラリア	Player's active assessment	NRL メルボルンストーム	クラブ所属全選手	教育プログラムへの積極性をポイントに換算し、選手評価の物差しにする

トップアスリート・セカンドキャリア支援プロジェクト(2007) トップアスリートのセカンドキャリア支援教育のためのカリキュラム開発 (2). 平成 18 年度報告書～基礎研究からカリキュラム開発へ～, pp31-32. より一部抜粋

<http://www.shp.taiiku.otsuka.tsukuba.ac.jp/scweb/everything/taisaku/world-list.html>

### 3. 日本の部活動における問題

日本においてアスリートが学力を十分に身につけられない一番の理由として部活動の存在が挙げられる。文部科学省による「運動部活の在り方に関する調査研究報告書(平成 9 年 12 月)」によると、中高生の 70%以上は週 6～7 日部活動をしており、一週間のうち部活動がかなりの割合を占めていることがわかる。また、生徒の活動中の悩みに関しては、「疲れがたまる」「休日が少ない」「遊んだり勉強したりする時間がない」という 3 つの項目が中高ともに上位を占めており、部活動がほかの活動を圧迫していることが伺える。またベネッセの「放課後の生活時間調査」によると「勉強する時間を増やしたい」と考える生徒が中学生では 5 割、高校生では 6 割存在することが分かっている。

また、高校においては近年の少子化による受験者獲得競争の激化に伴い、「強い部活動」を受験者数増加のための広告塔に利用する学校も増えてきている。こうした学校では、授業を犠牲にして部活動を優先させているケースが多い。こうした背景も、スポーツ以外に得意な事がないいわゆる「スポーツ馬鹿」の発生を加速させていると言える。そしてこうした「スポーツ馬鹿」はスポーツ選手としてのキャリアを挫折したとき、多くの場合は路頭に迷ってしまう。アスリートになるために鍛錬を積みば積むほど、他のキャリアでは生きていくことはほぼ不可能になる、というリスクが常に付きまとってしまうのである。こうしたリスクは、本来誰もが楽しめるものであるはずの「スポーツ」の本分に反するのではないか。

### 4. 提案

スポーツを、生涯を通じて誰もが楽しめるような世界を作り上げる。特にアスリートを目指す人々が常に持つキャリア挫折の際のリスクを負うことなく、スポーツの楽しさを安心して享受できるような制度を作る。

### 5. 解決策

以上のようなことを実現させるためには、勉学を犠牲にしがちなスポーツ強豪校にセカンドキャリアを踏まえた教育に目を向けさせ、そうした教育を大多数の学校が採用するような環境を作る必要がある。そのための一歩として、以下のような解決策を日本の学校教

育を統率する「文部科学省」に向けて提示したい。

#### ① 小テスト制度

##### ○方法

各校が小テストを定期的実施し、一定の基準に満たない者は一時的に部活動を制限する。

- ・頻度：週に○回以上
- ・テストの内容：授業内容の復習

##### ○目的

練習以外のこと（特に学校の授業）を犠牲にしがちな「スポーツ馬鹿」にその日の授業の内容を復讐させ、基礎学力の向上を図る。その際、テストに罰則（一定の点数基準に満たない生徒には一時的に部活動を制限）を設けることで「部活動の練習参加」をモチベーションにし、授業内容の定着を効果的なものにする。

#### ② 文武両道モデル校認定制度

##### ○方法

スポーツ、学業の両方に力を入れている高校を「文武両道モデル校」として認定する。

##### ○認定基準の例

- ・文武両道生徒（後述）の生徒が一定数の割合で在籍
- ・上述の小テストが実行されている
- ・セカンドキャリアを踏まえた教育を行っている

##### ※文武両道生徒の基準例

- ・文科省が全国の中高生向けに行っているスポーツテストで全国上位に入っている
- ・漢検○級、英検○級、TOEIC○点以上のスコアなどを保有
- ・民間企業が行っている全国基準の模試で偏差値○以上                   etc…

##### ○目的

スポーツ強豪校は部活を「広告塔」としている側面があるが、「文武両道モデル校」に広告塔としての役割を持たせることで、こうした部活動強化のために学業を犠牲にしがちな強豪校がモデル校認定取得のためにセカンドキャリアを踏まえた教育に目を向けるインセンティブを作り出す。

#### <資料・文献>

文部科学省 運動部活の在り方に関する調査研究報告書(平成9年12月)

永井良一(2004) スポーツは『良い子』を育てるか、生活人新書

友添秀則・中村敏雄(2006/5) 現代スポーツ評論(14)特集:変貌する大学スポーツ、創文企画  
筑波大学トップアスリート・セカンドキャリア支援プロジェクトトップアスリートのため  
のセカンドキャリア web

<http://www.shp.taiiku.otsuka.tsukuba.ac.jp/scweb/everything/sports-carrer/index.html>